

次期仙台市地域公共交通計画の策定に係る現状分析結果について

1. 公共交通に関する現状分析

(1) 地域特性の整理

- ・ 人口の推移と現状・将来の人口分布の変化（年代別）
- ・ 交通事故の推移と免許保有・返納状況
- ・ 入込者数・宿泊者数の推移
- ・ 都心部の歩行者通行量

(2) 既存公共交通及び交通利用の現況把握・整理

- ・ 鉄道・路線バスの運行状況・利用状況
- ・ 路線バスの車両数・運転士数の推移
- ・ 地域交通の導入状況
- ・ タクシーの利用者数・車両台数の推移
- ・ タクシー・バス事業者の所在地
- ・ シェアサイクル・電動キックボード等の導入状況
- ・ 自動運転等の新技術の開発・活用動向等

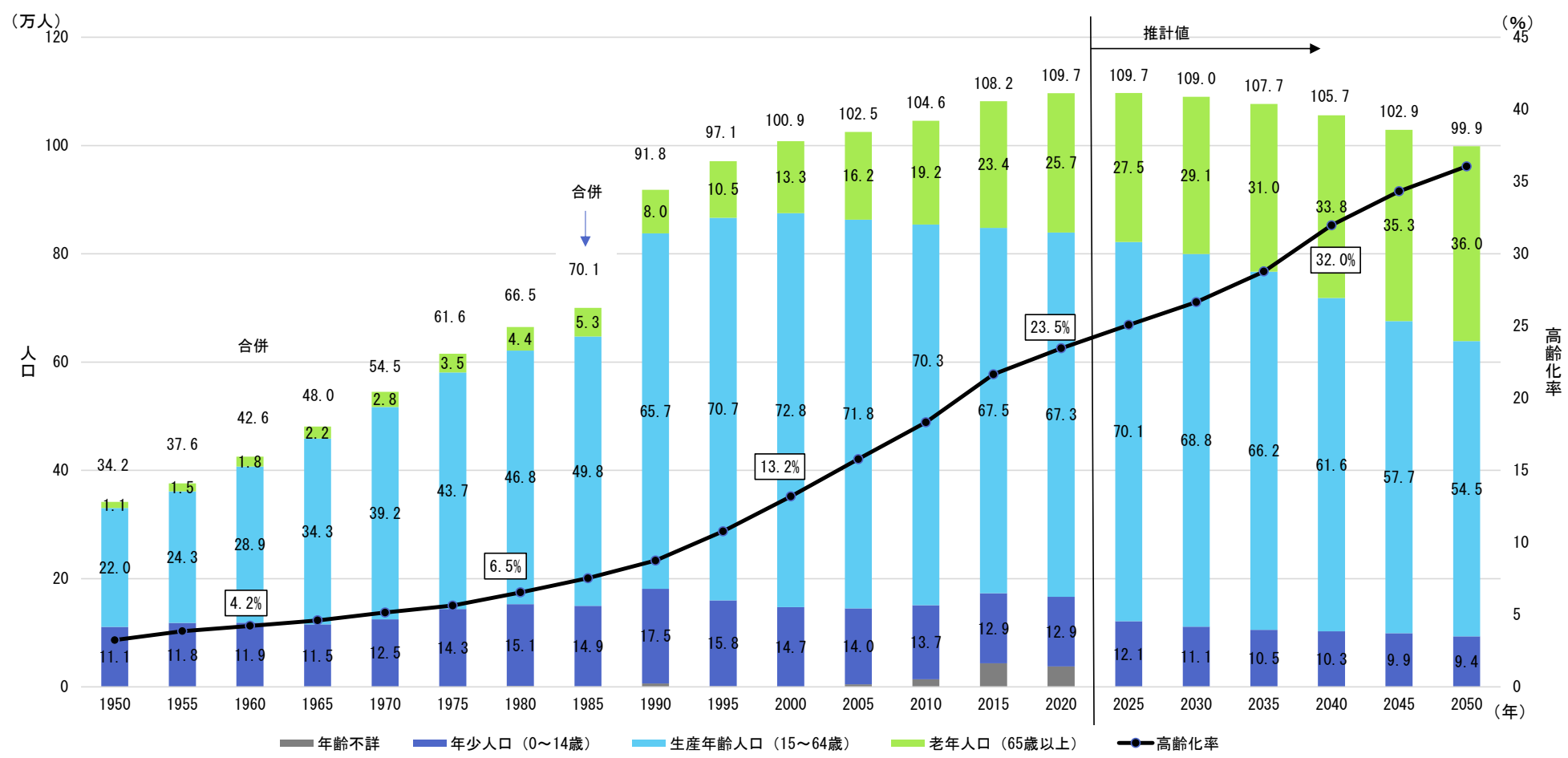
2. 次期計画における「公共交通に関する現状と課題」（案）

1. 公共交通に関する現状分析

(1) 地域特性の整理

将来人口の推移（1950～2050年）（市全域／年齢階層別）

- 仙台市の人口は、2025年頃を境に増加傾向から減少傾向に転じ、**人口減少が見込まれる**。（令和7年1月1日現在推計人口は109.5万人）
- 2020年時点で高齢化率は23.5%であり、今後も**高齢化の進行**が深刻である。



出典：令和2年までは「国勢調査結果」（総務省統計）を加工して作成、令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」の推計値のデータ使って算出。

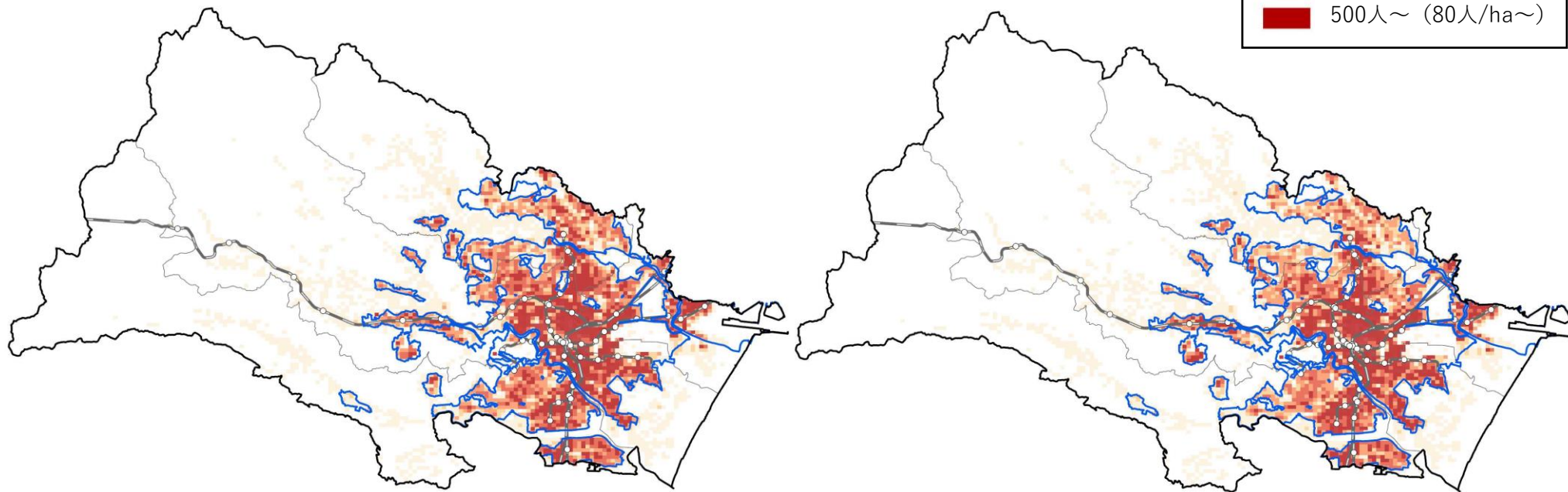
現状・将来の人口分布の比較（全年齢）

① 全年齢

- 全年齢において今後20年で人口分布に大きな変化はないが、市全域的に若干の人口減少が見込まれる。

■2020年（250mメッシュ）

■2040年（250mメッシュ）



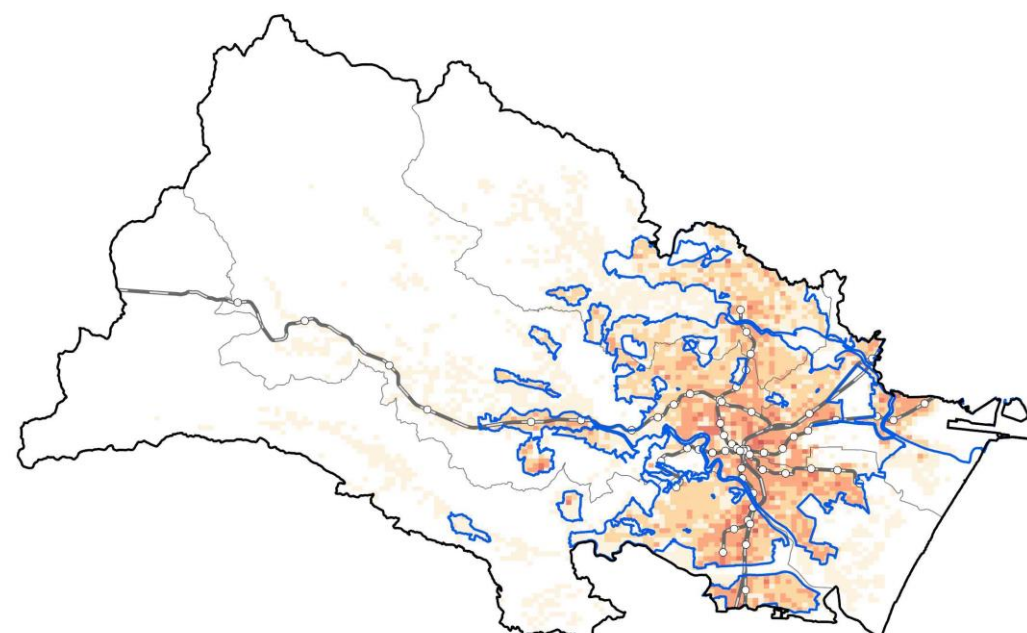
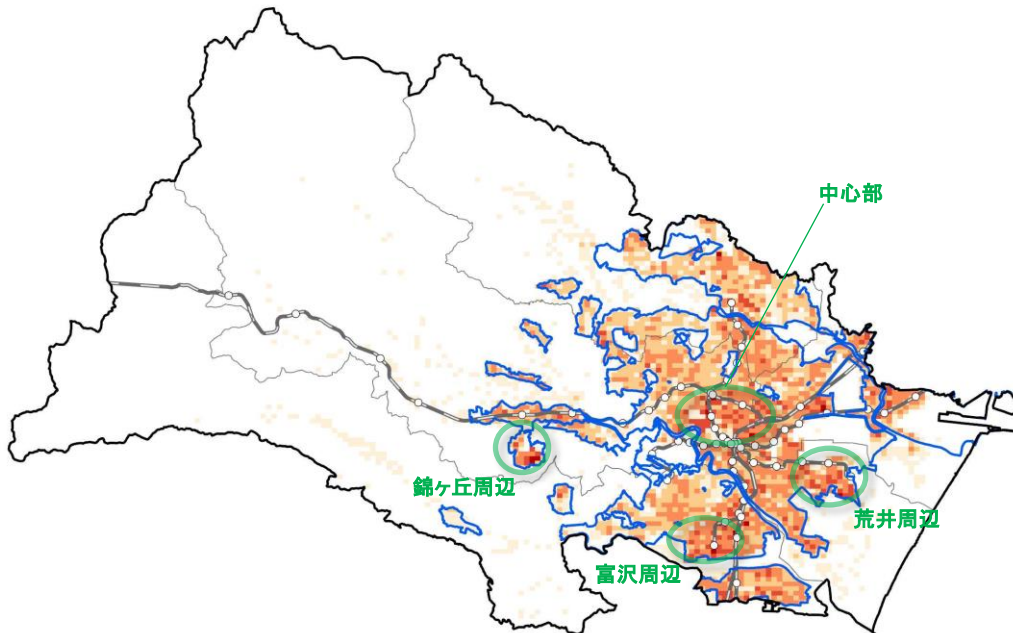
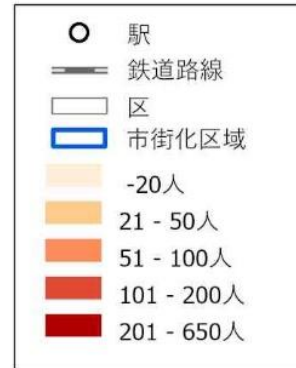
現状・将来の人口分布の比較（年齢階層別）

② 年少人口（0～14歳）

- 年少人口は、中心部及び市街化区域の縁辺部付近で人口の多いエリアが見られる。今後20年では、人口分布に大きな変化はないが、市全域的に人口減少が見込まれる。

■2020年

■2040年



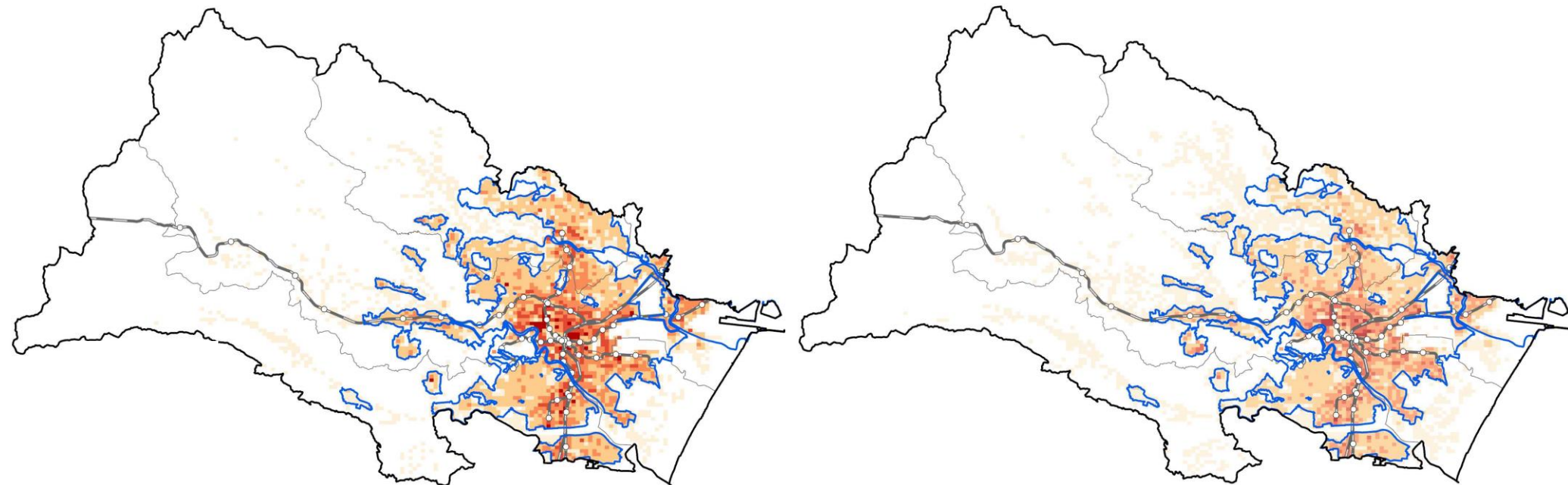
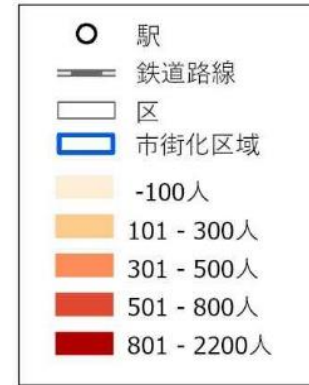
現状・将来の人口分布の比較（年齢階層別）

③ 生産年齢人口（15～64歳）

- 生産年齢人口は、中心部及び鉄道沿線において人口の多いエリアが見られる。今後20年では、人口分布に大きな変化はないが、市全域的に人口減少が見込まれる。

■2020年

■2040年



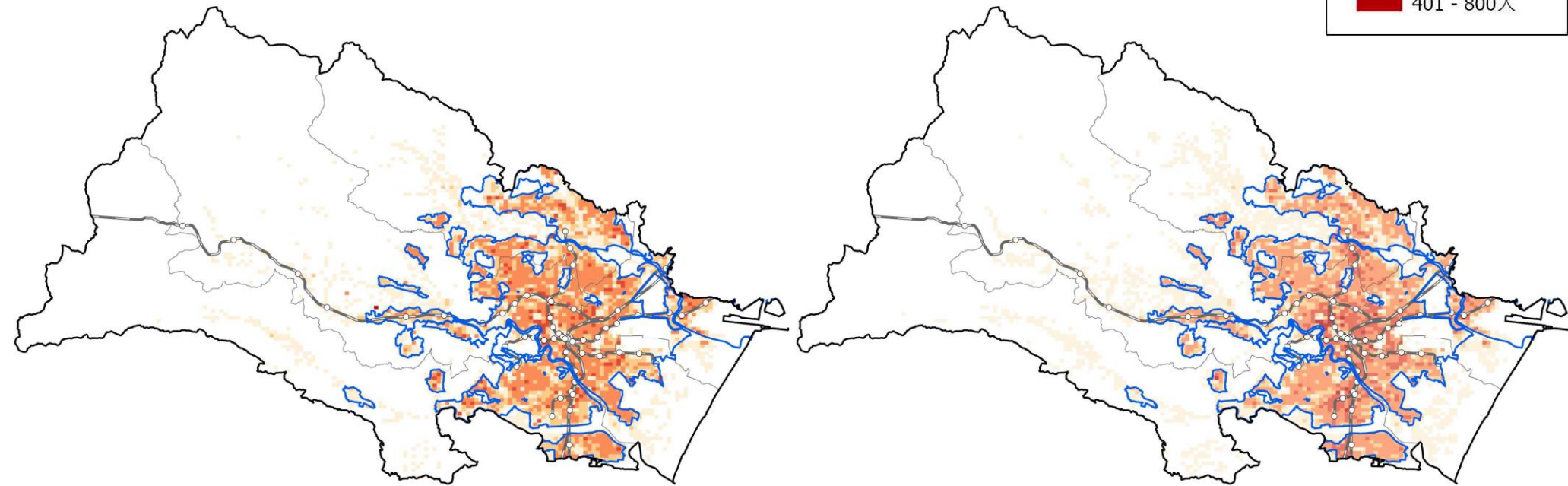
現状・将来の人口分布の比較（年齢階層別）

④ 高齢人口（65歳以上）

- 高齢者（65歳以上）の多いエリアが市街化区域内に広く分布しており、今後20年でさらなる増加が見込まれる。

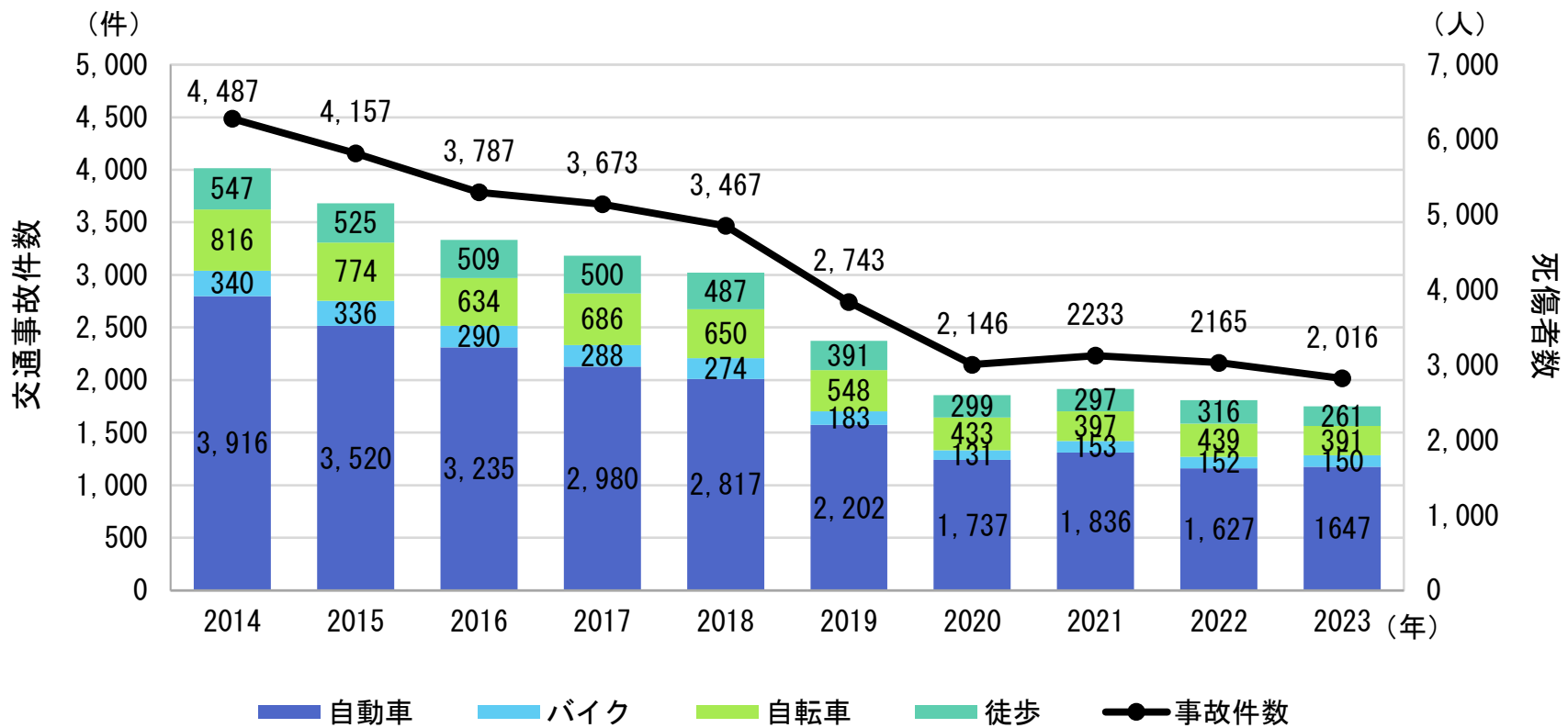
■2020年

■2040年



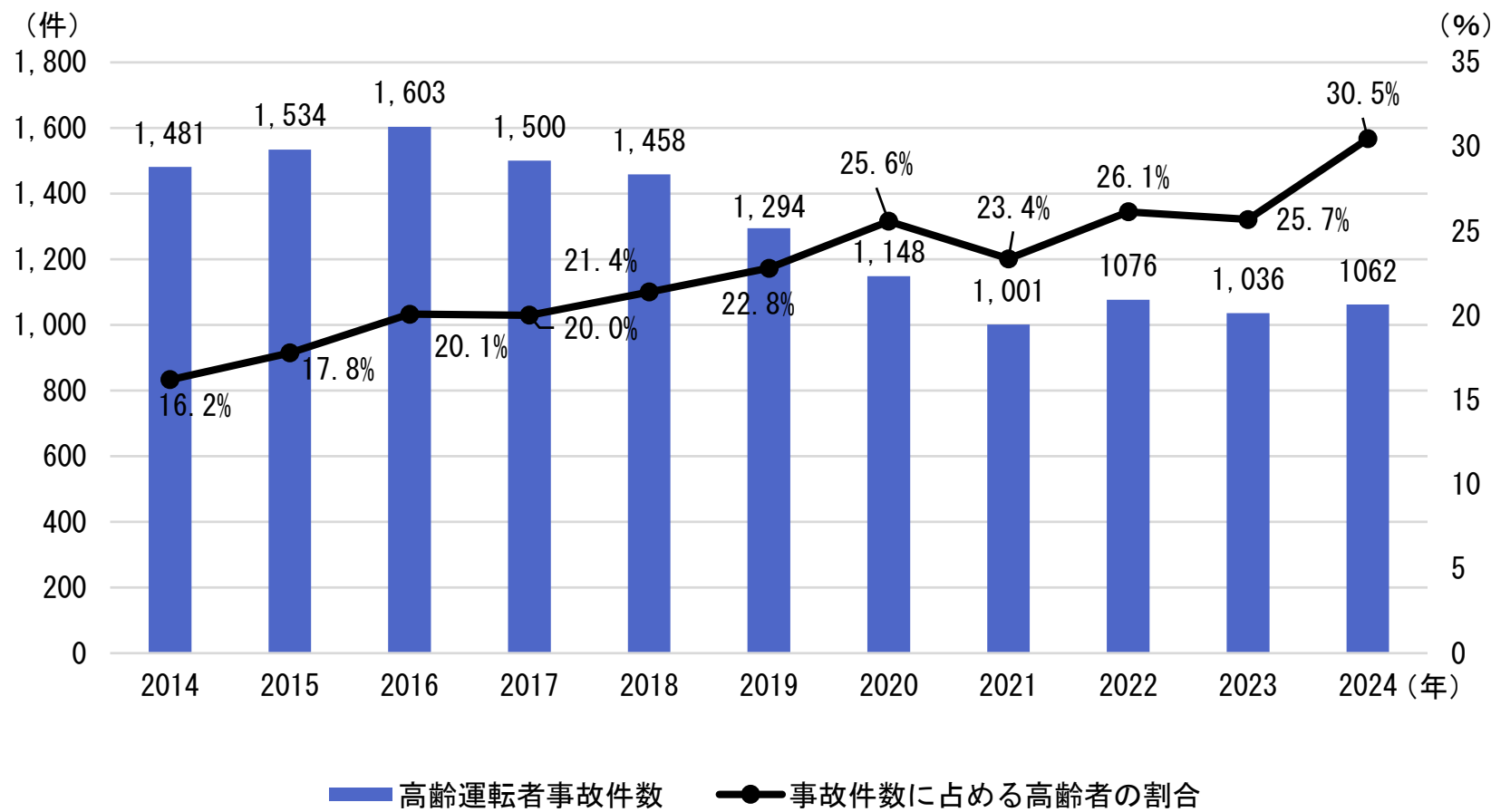
交通事故件数・死傷者数の推移（2014～2023年）（市全域／交通手段別）

- 仙台市の交通事故件数は、2023年で自動車、自転車、徒歩、バイクの順に多い。交通事故件数・死傷者数ともに年々減少している。



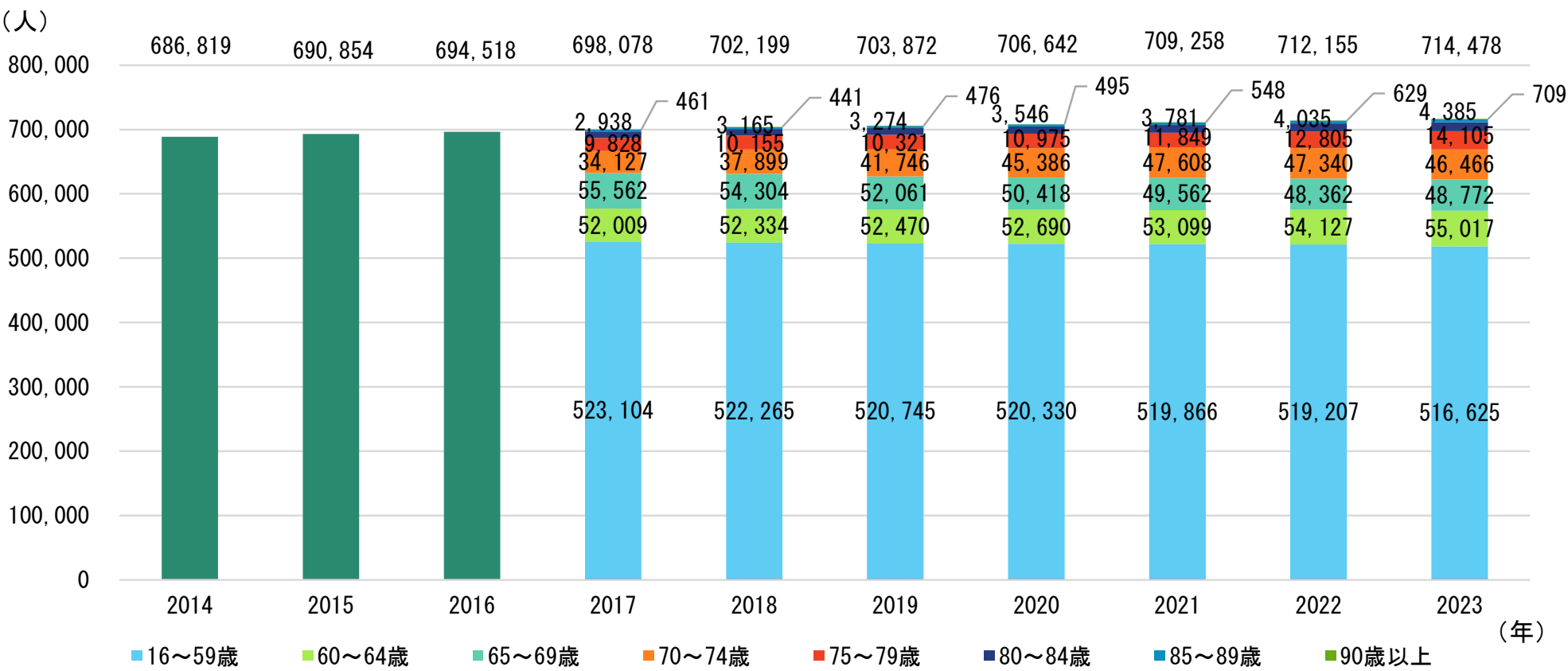
高齢運転者事故発生件数の推移（2014～2024年）（県全域）

- 宮城県における高齢運転者事故件数は2016年を境に減少しているが、事故件数に占める高齢者の割合は年々増加している。



運転免許保有者数の推移（2014～2023年）（市全域／年齢階層別）

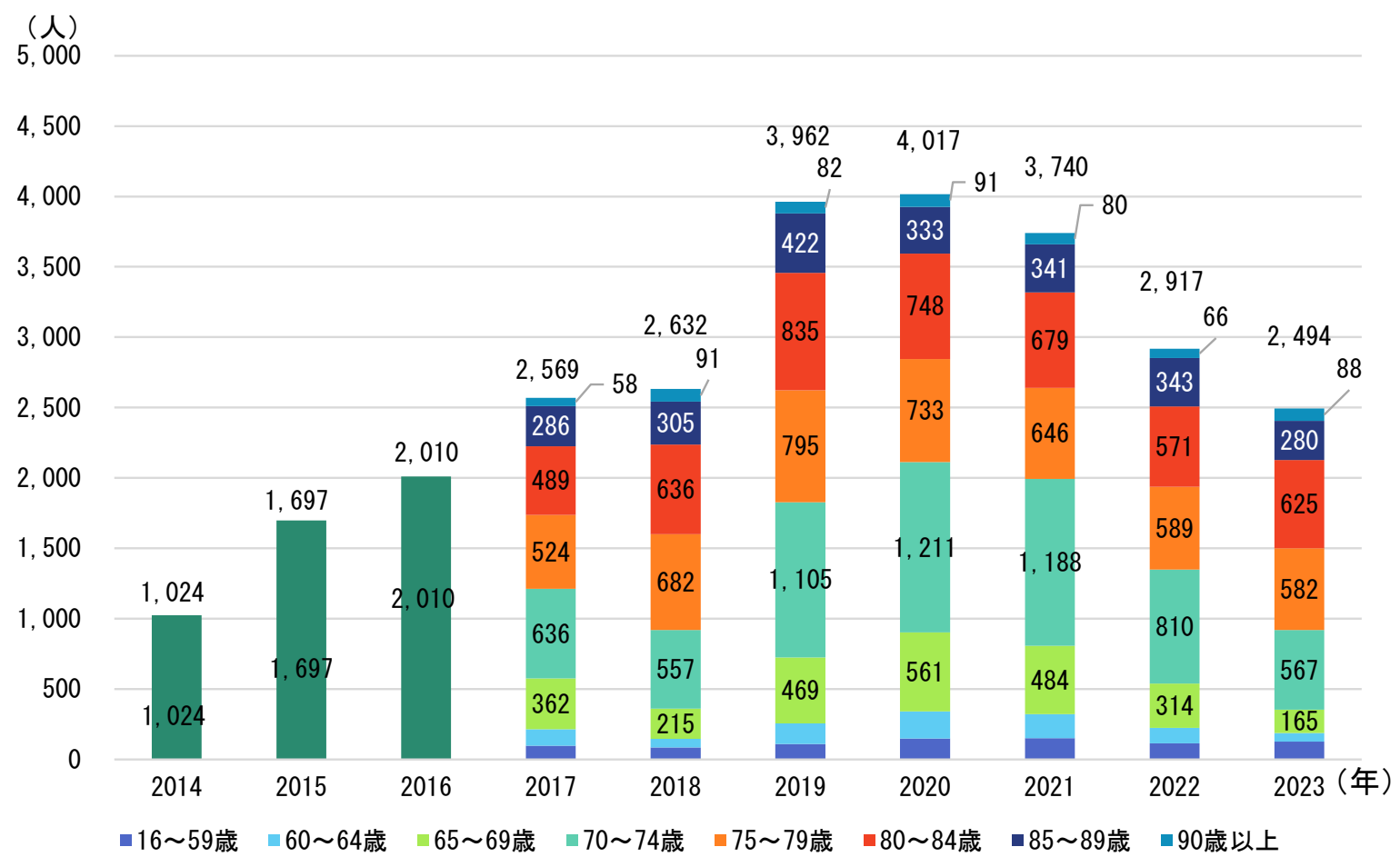
- 仙台市内の運転免許保有者の総数は微増しており、年齢階層別では75歳以上の保有者数の増加が見られる。



出典：オープンデータみやぎ 運転免許人口統計より仙台市データを抜粋
仙台市 仙台市交通安全対策会議 「第11次仙台市交通安全計画（令和3年度から令和7年度）」 運転免許保有者数よりデータを抜粋 11

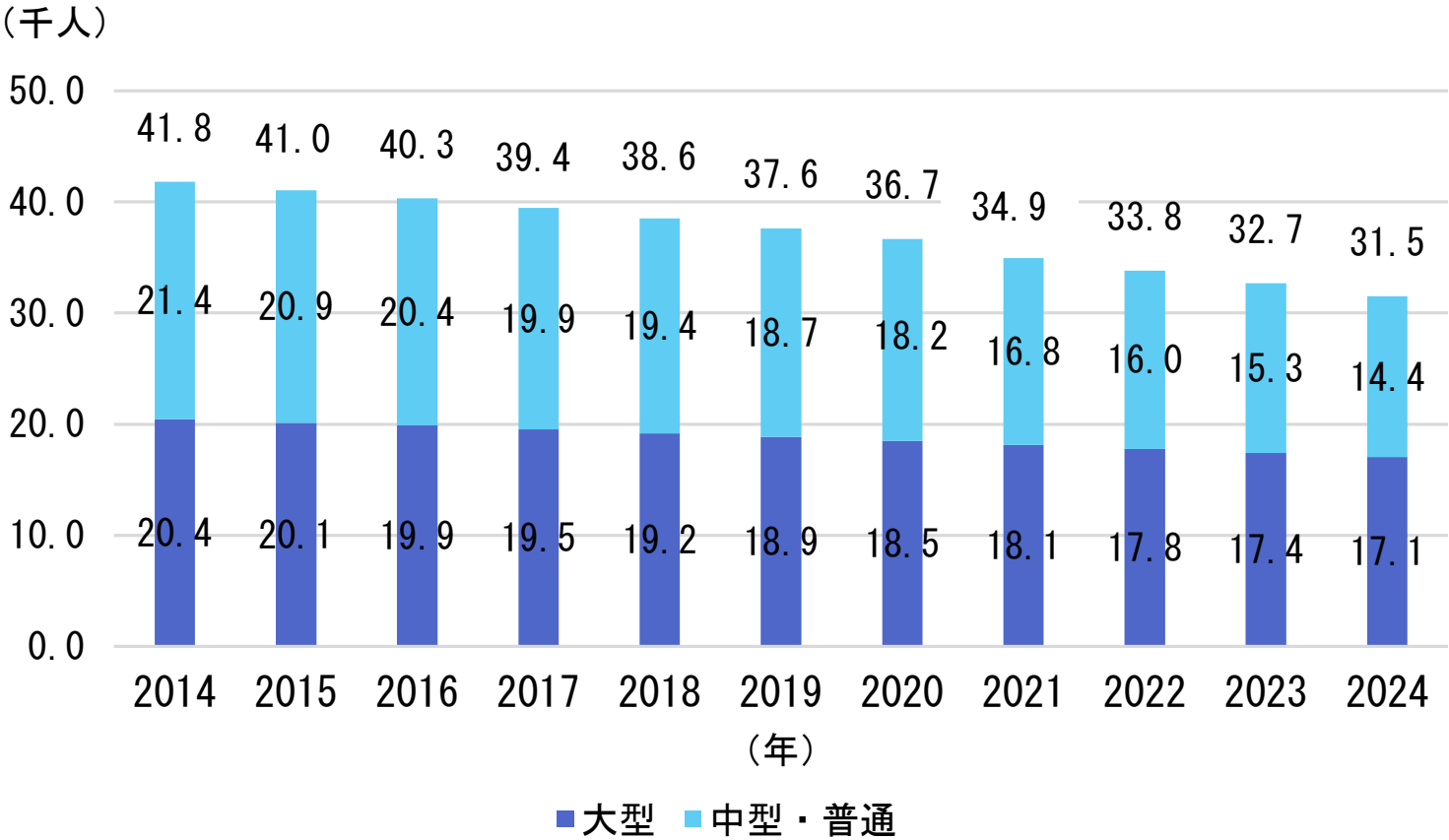
運転免許自主返納状況の推移（2014～2023年）（市全域）

- 仙台市内の運転免許返納状況は、2020年をピークに減少傾向にある。特に70～74歳の返納者数が減少している。



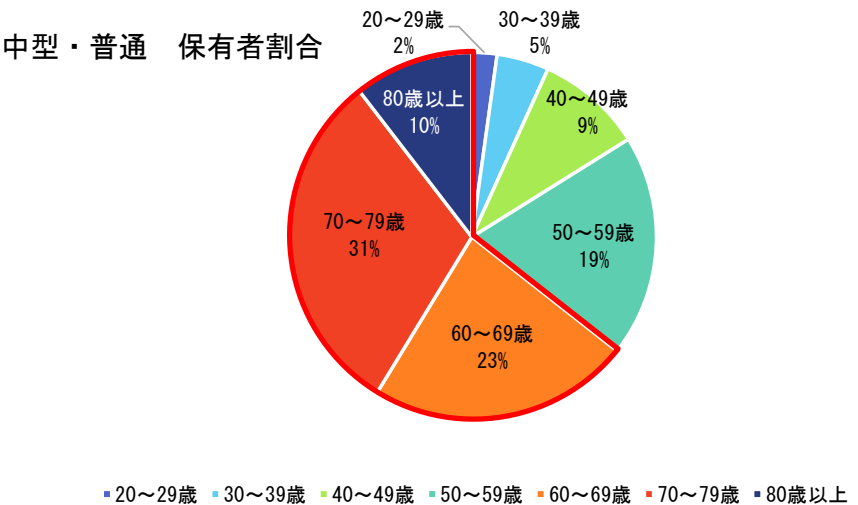
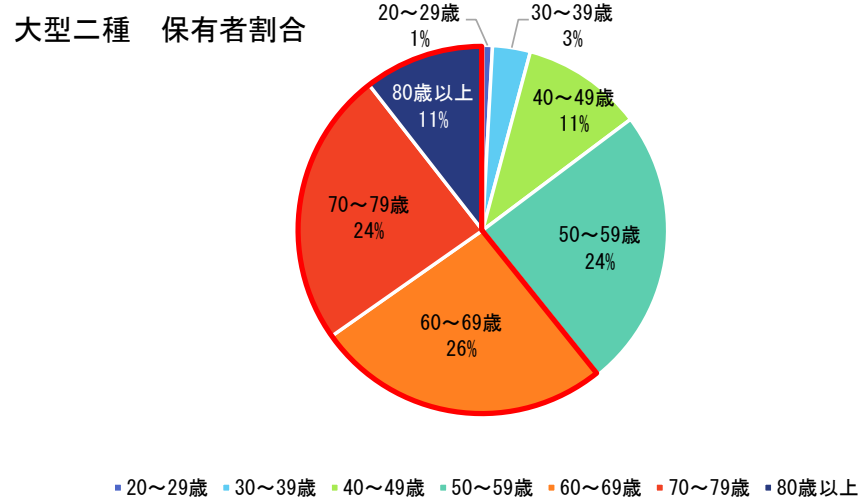
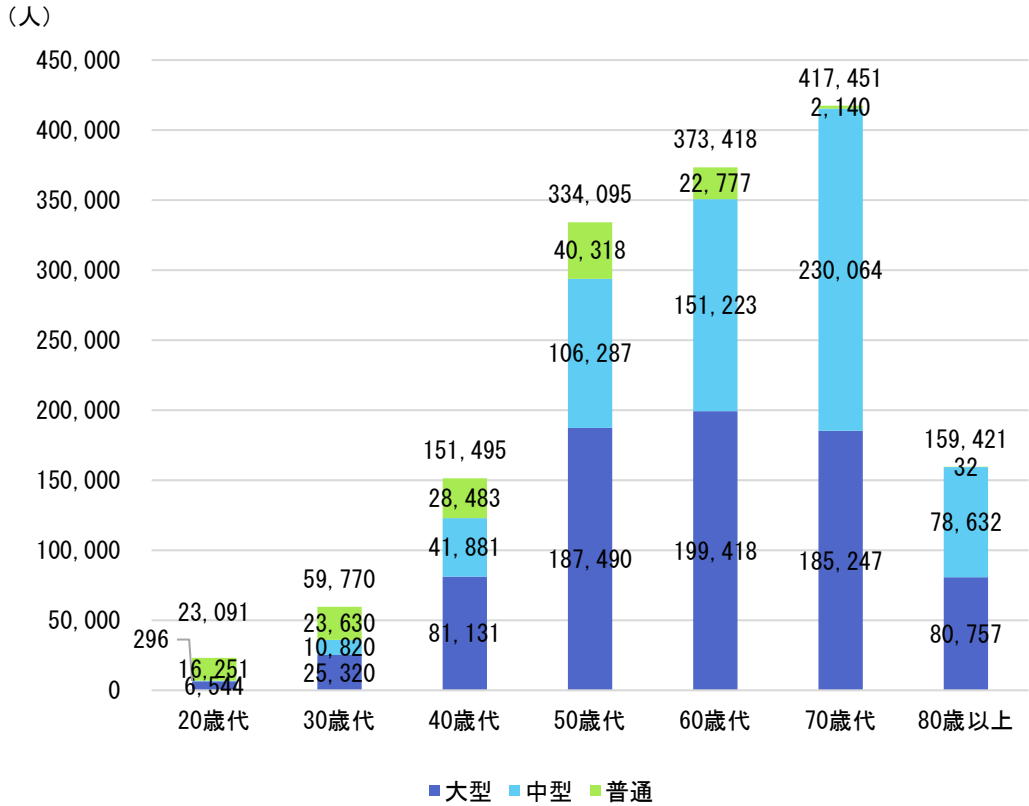
第二種運転免許の保有者数の推移（2014～2024年）（県全域）

- 路線バスやタクシーの運転に必要な二種免許保有者数は、大型、中型・普通ともに年々減少傾向にある。



年齢別第二種運転免許保有者数の状況（2024年）（全国／車両種別別）

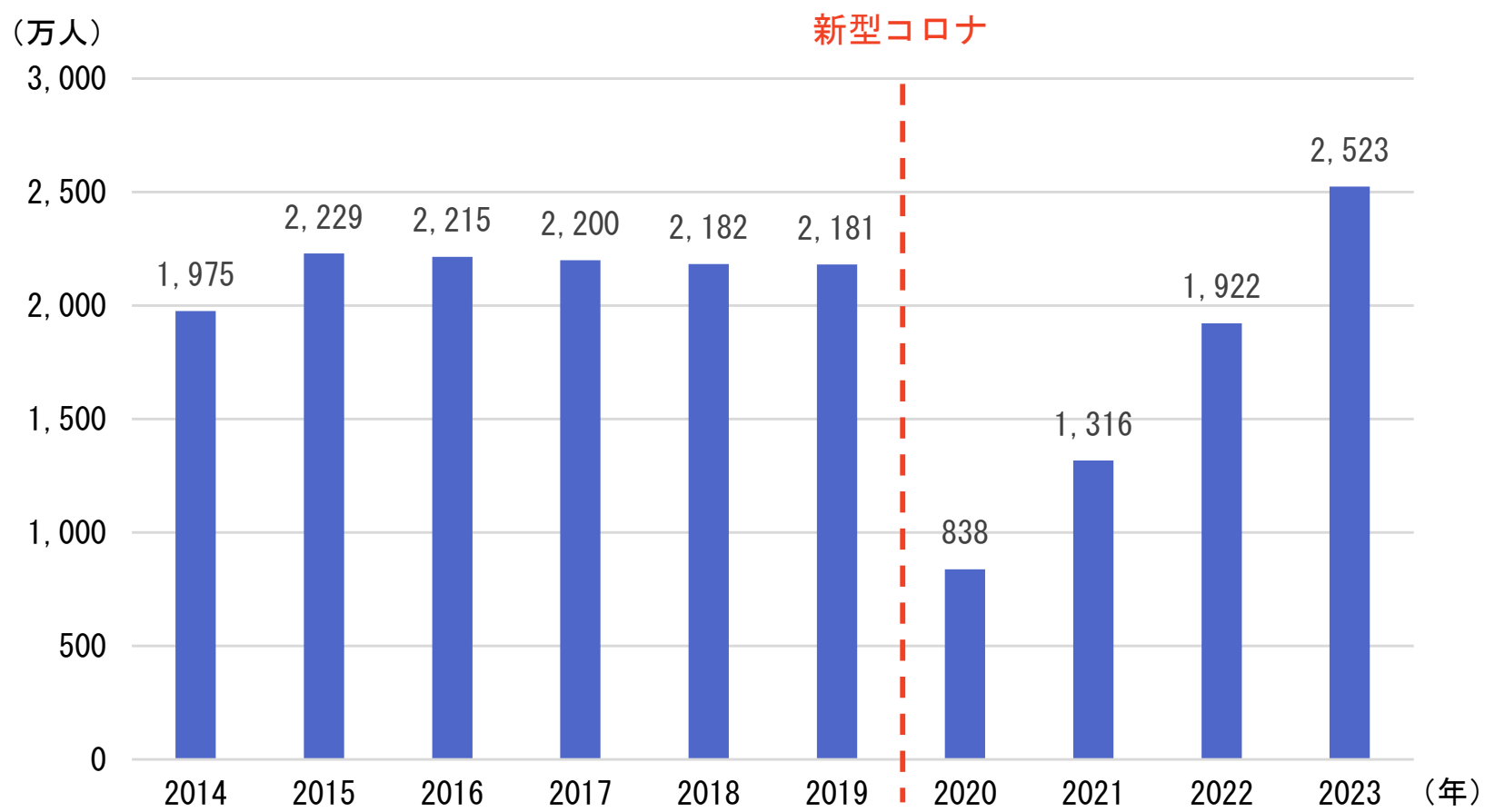
- 第二種運転免許保有者数は年齢別に比較すると70歳代が最も多く41.7万人であり、次いで60歳代が37.3万人、50歳代が33.4万人で高齢化が進行していることが伺える。
- 大型二種保有者及び中型・普通保有者の割合は60歳以上が半数以上を占めている。



出典：警察庁免許統計より作成

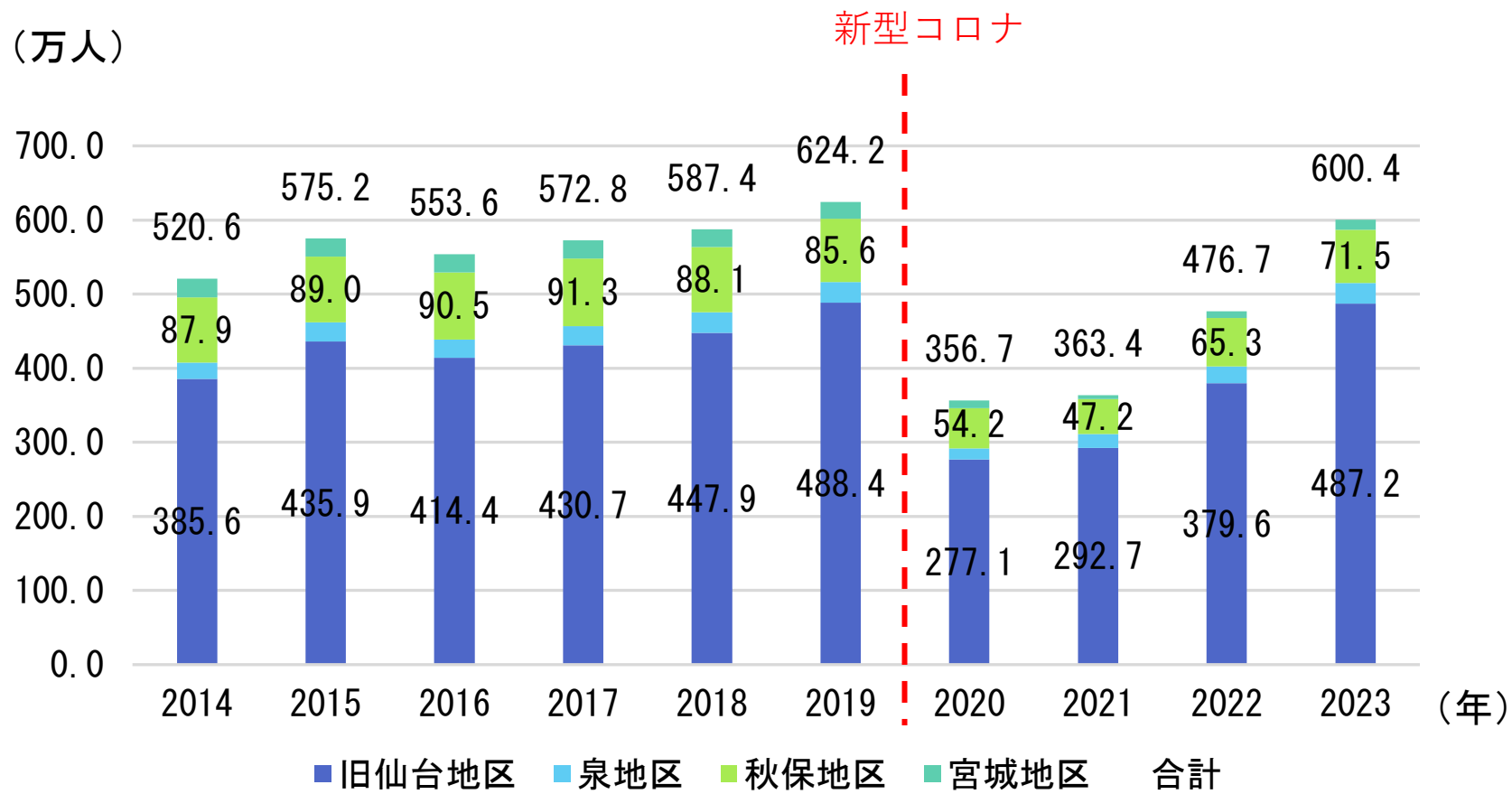
入込者数の推移（2014～2023年）（市全域）

- 仙台市の入込者数は新型コロナ流行前の2019年までは2,000万人前後で推移していた。
- 新型コロナの影響により2020年は入込者数が838万人まで落ち込んだものの、その後回復し、2023年は2,523万人に達している。



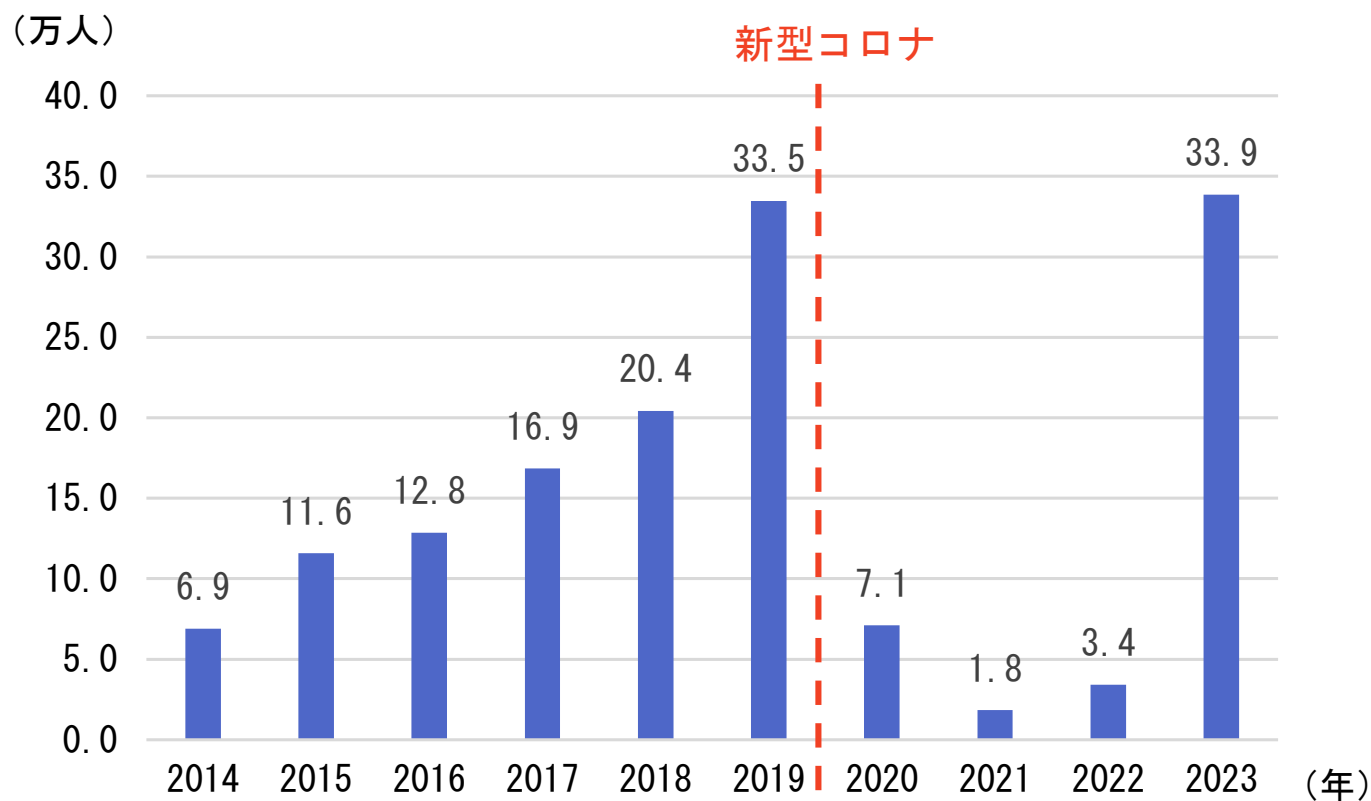
宿泊者数の推移（2014～2023年）（地区別）

- 仙台市の宿泊者数はどの年においても旧仙台地区、秋保地区の順が多い。
- 2020年で356.7万人まで落ち込んだものの、2023年には600.4万人まで回復し、新型コロナの流行前の数に近づいている。



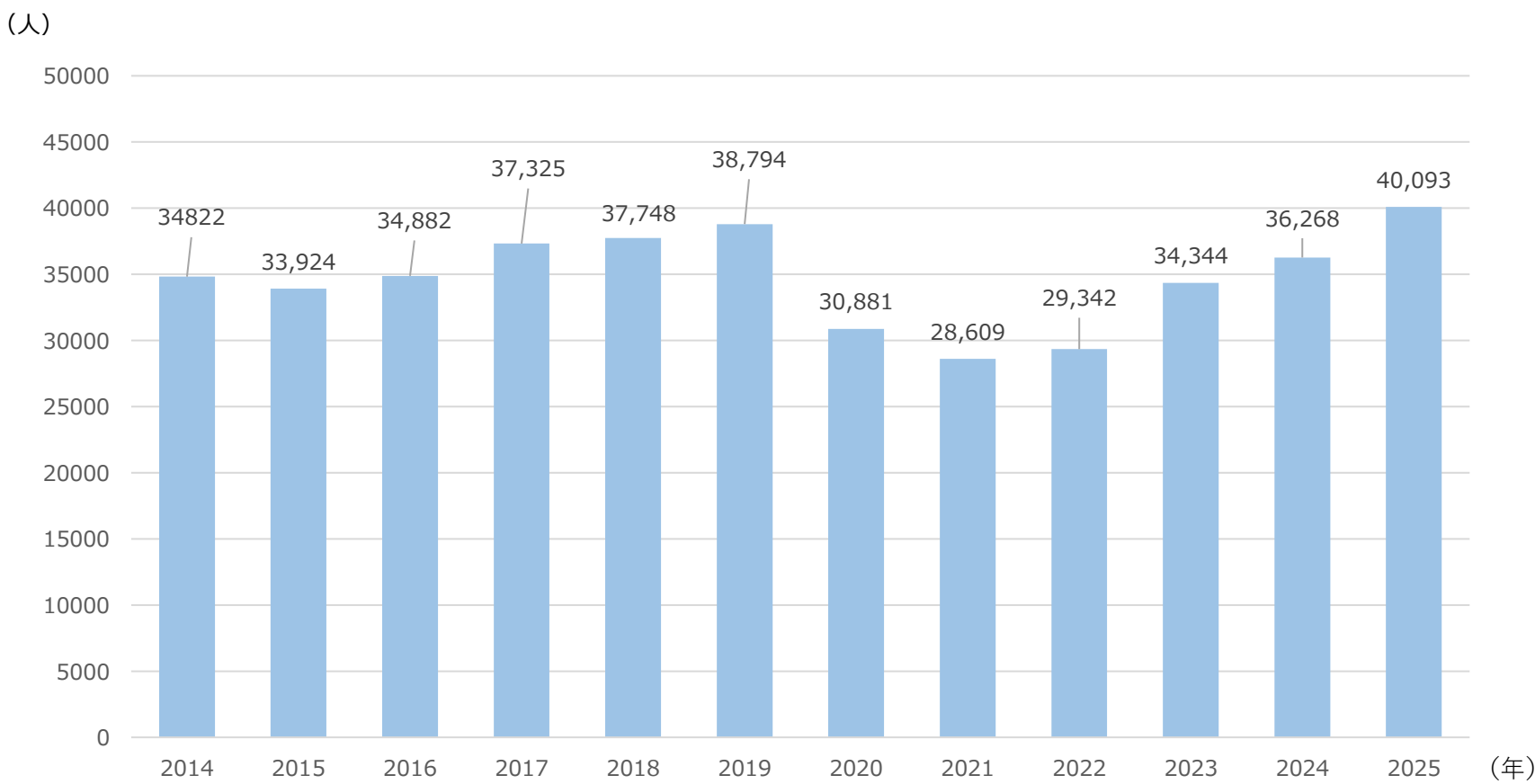
外国人宿泊者数の推移（2014～2023年）（市全域）

- 仙台市への外国人宿泊者数は2014年から2019年にかけて増加傾向にあり2019年には33.5万人であった。
- 2020年以降は落ち込んだものの、2023年には新型コロナ流行前の水準の33.9万人にまで回復している。



中心部商店街の通行量調査結果（調査地点の平均値）（2014～2025年・平日）

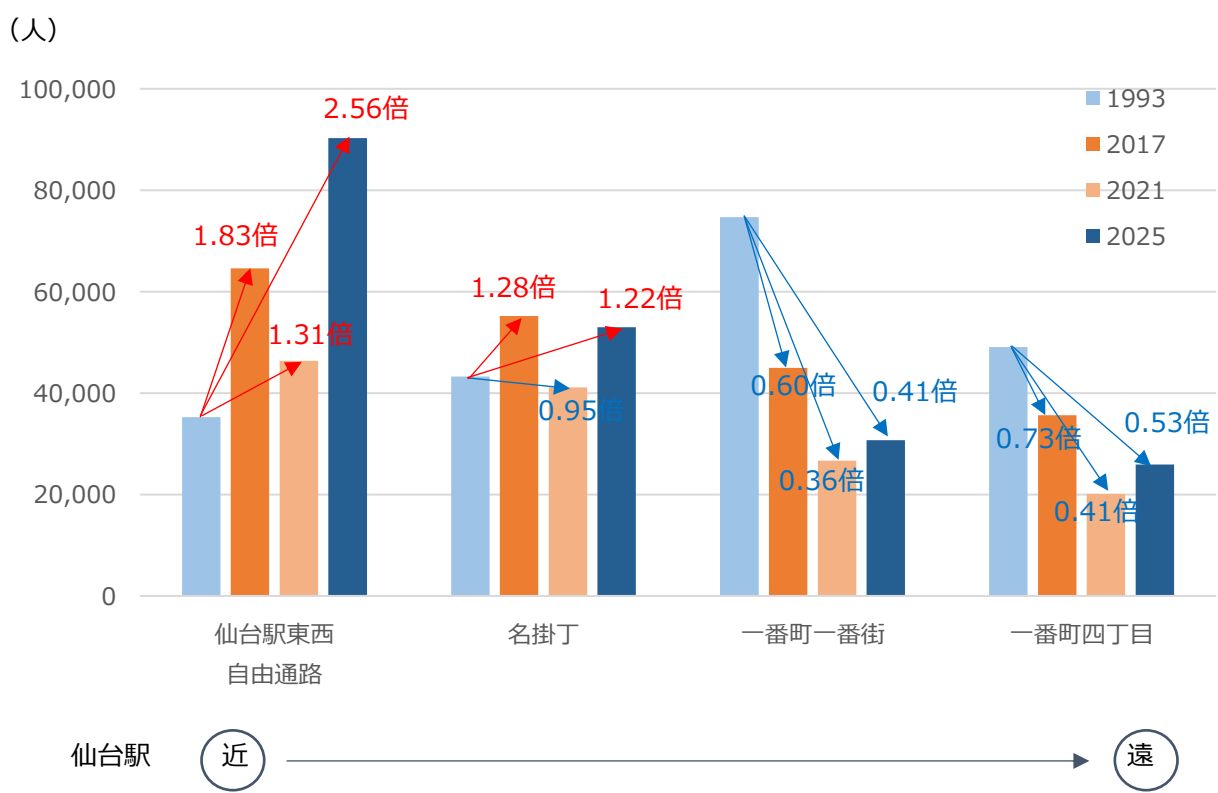
- 都心の歩行者数は、2019年まで増加傾向にあったが、新型コロナウイルスの影響により減少したが、その後回復し、2025年には2014年以降で最も高い水準となっている。



出典：仙台商工会議所 仙台市中心部商店街の通行量調査結果をもとに作成
※値は、「仙台駅・東西自由通路」、「松澤蒲鉾前（名掛丁）」、「三瀧不動尊・三原堂前（クリスロード）」、「藤崎前（おおまち）」、「大井宝石店・フォーラス前（一番町一番街）」、「セブン（またはカワイ・浅久前）（一番町四丁目）」の7地点平均

中心部商店街の地点別通行量の推移（休日）

- 地点別の通行量の推移をみると、1993年と比較して、仙台駅に近いエリアでは増加している一方で、仙台駅から離れた一番町周辺では大きく減少しており、歩行者が仙台駅前周辺に集中する傾向が見られる。



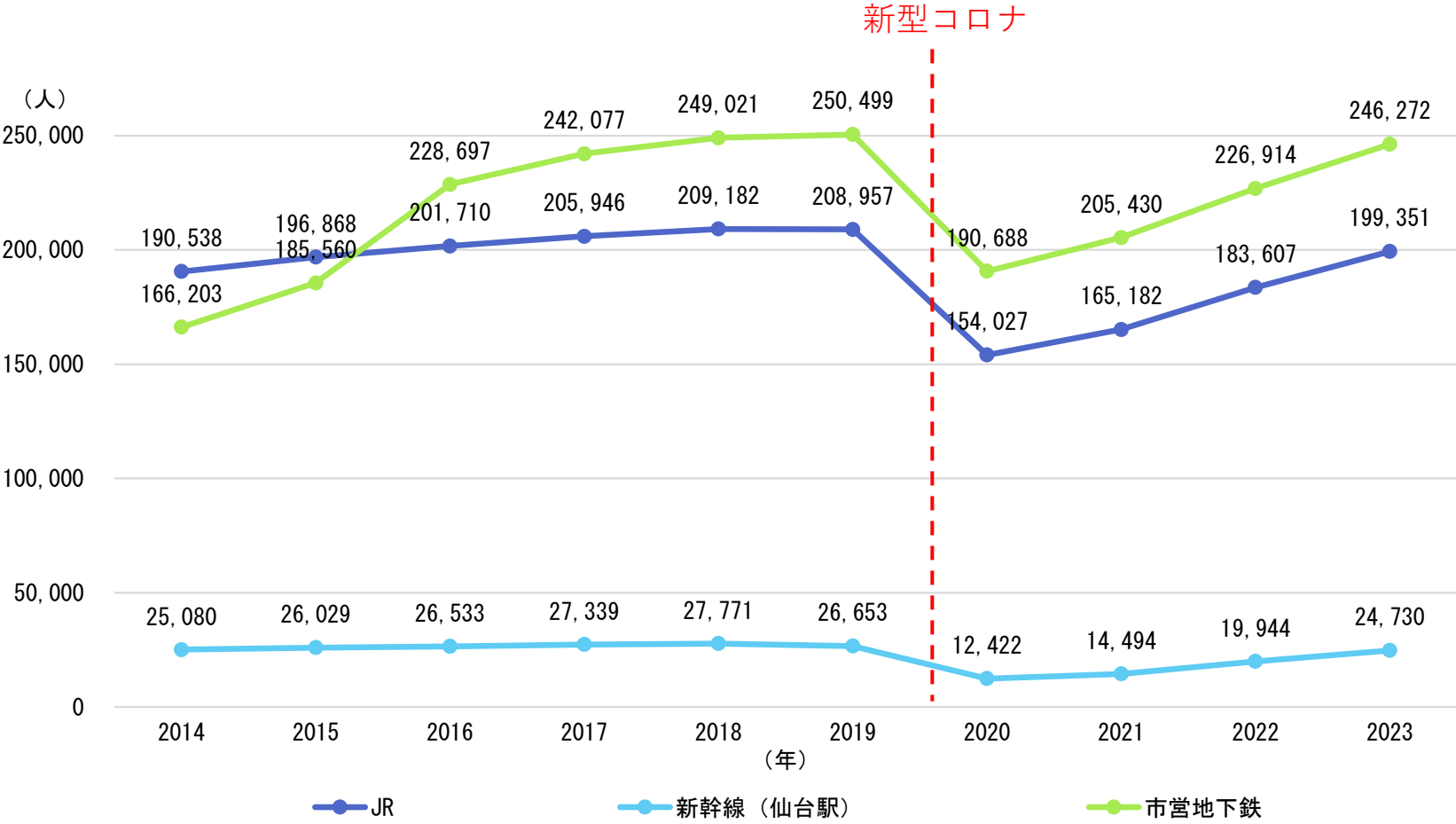
出典：仙台商工会議所 仙台中心部商店街の通行量調査結果をもとに作成

1. 公共交通に関する現状分析

（２）既存公共交通及び交通利用の現況把握・整理

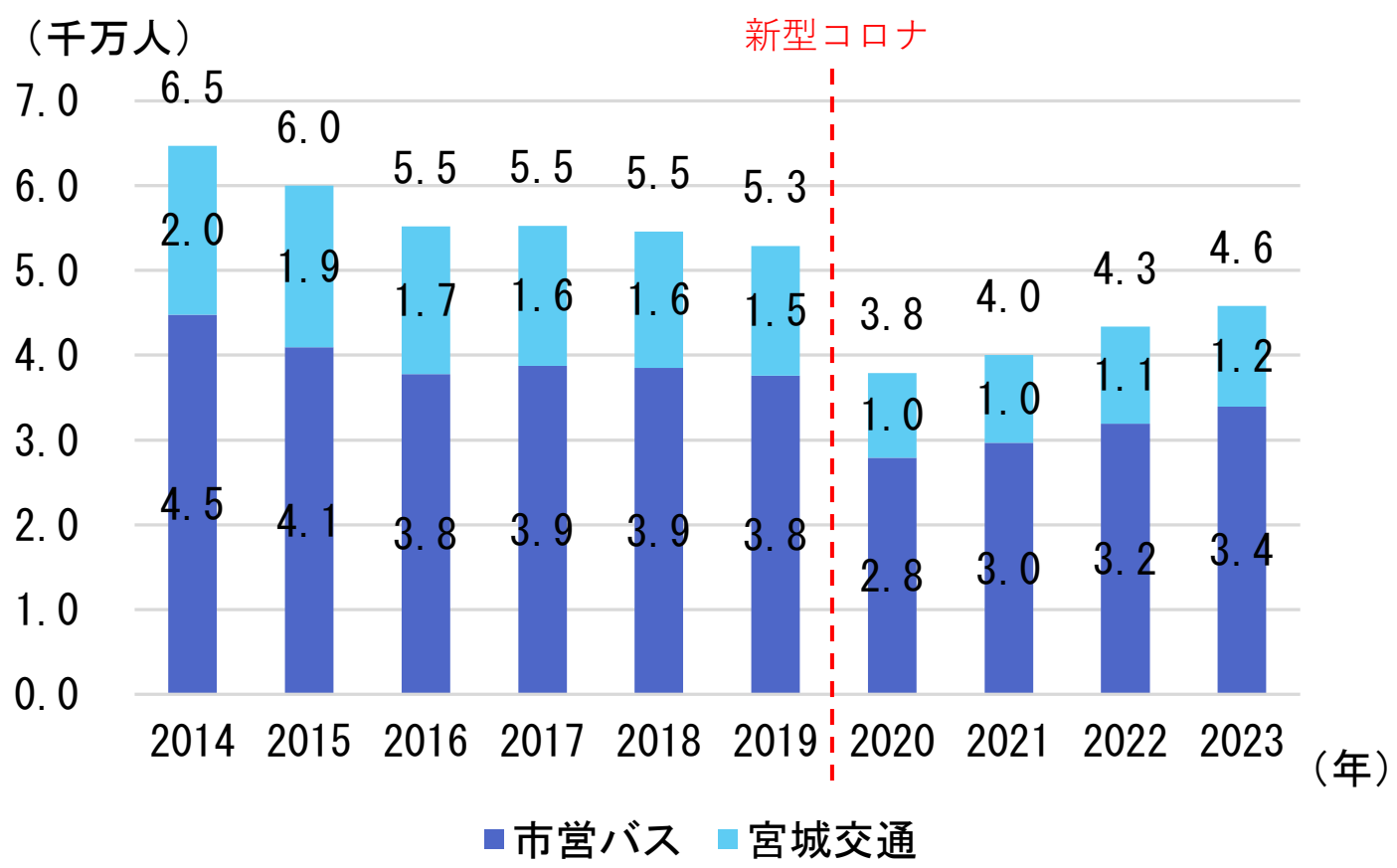
鉄道利用者数の推移（2014～2023年）（市全域／1日平均乗車人員）

- 鉄道利用者数は、新型コロナ流行の影響により**2020年**に大幅に減少し、その後は回復傾向にあるが、**2023年**時点では流行前の水準までは回復していない。



路線バス利用者数の推移（2014～2023年）（市全域/年間乗車人員）

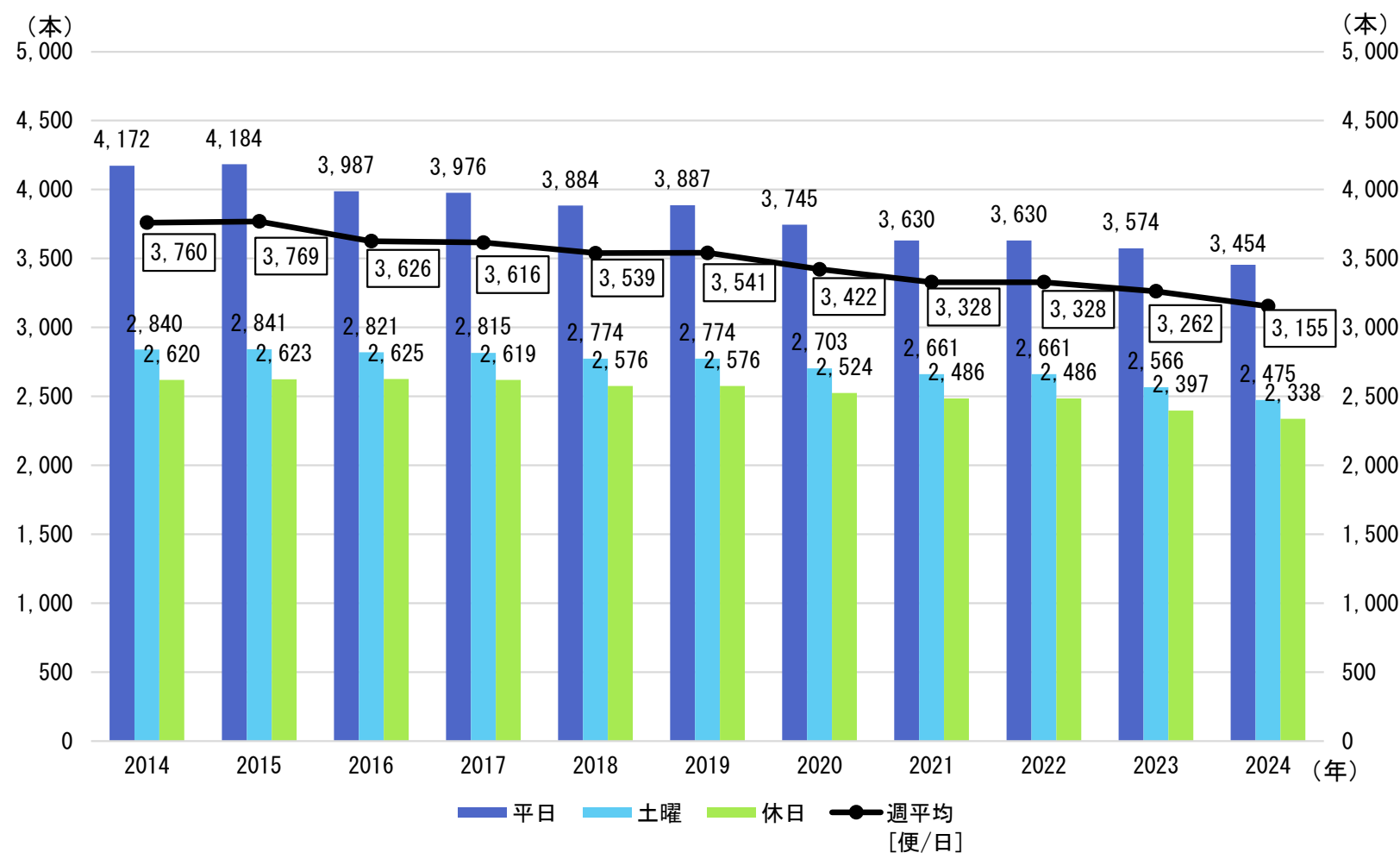
- 路線バスの利用者数は、年々減少傾向にある中、新型コロナ流行の影響により、2020年には利用者数が大きく落ち込み、その後は徐々に回復傾向にあるものの、流行前の水準まで回復していない。



路線バスの運行状況の推移（2014～2024年）（市全域/運行本数）

① 交通局

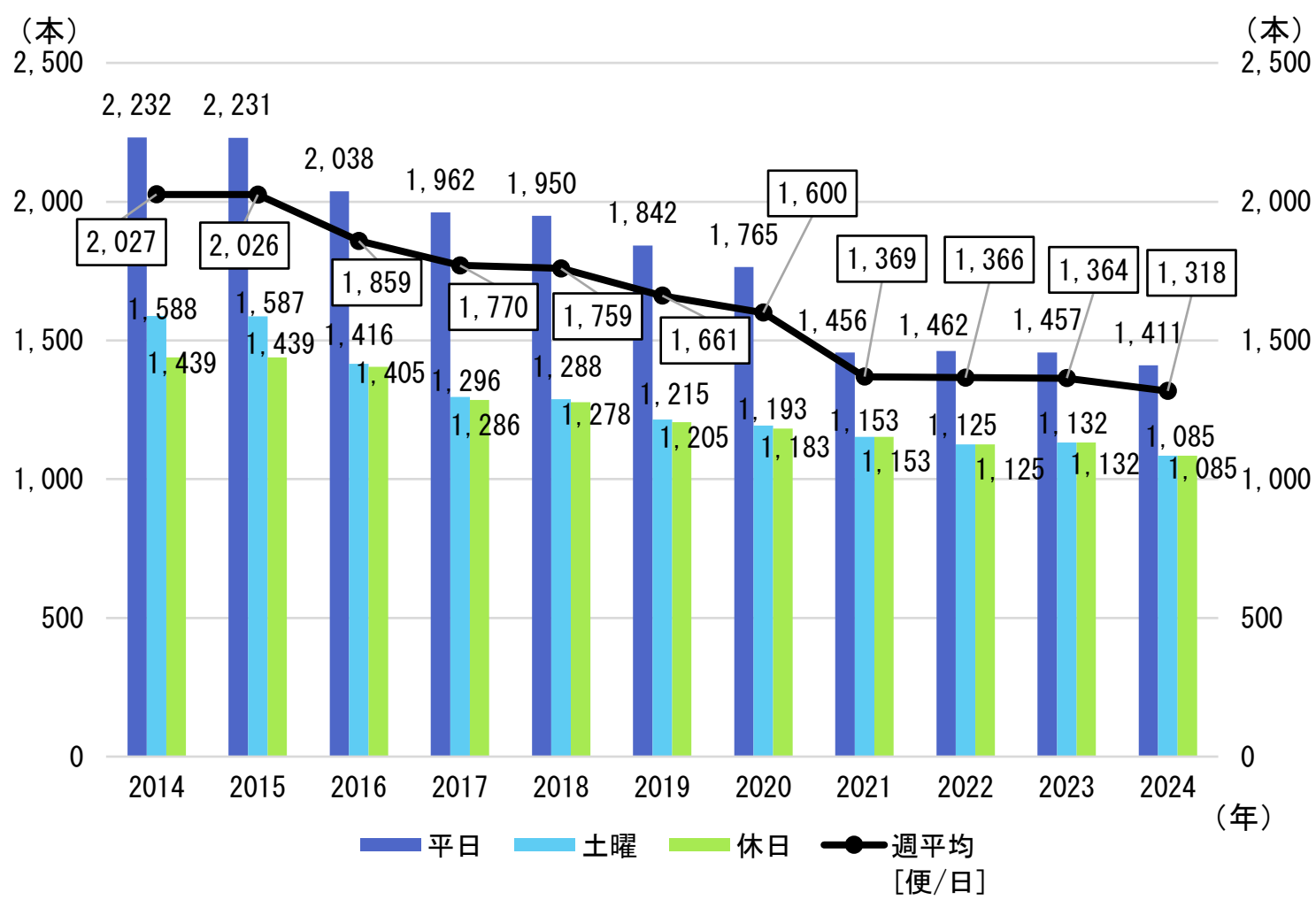
- 路線バスの運行本数は年々減少傾向にあり、2014年は平日4,172便/日であったのに対して、2024年は平日3,454便/日である。



路線バスの運行状況の推移（2014～2024年）（市全域/運行本数）

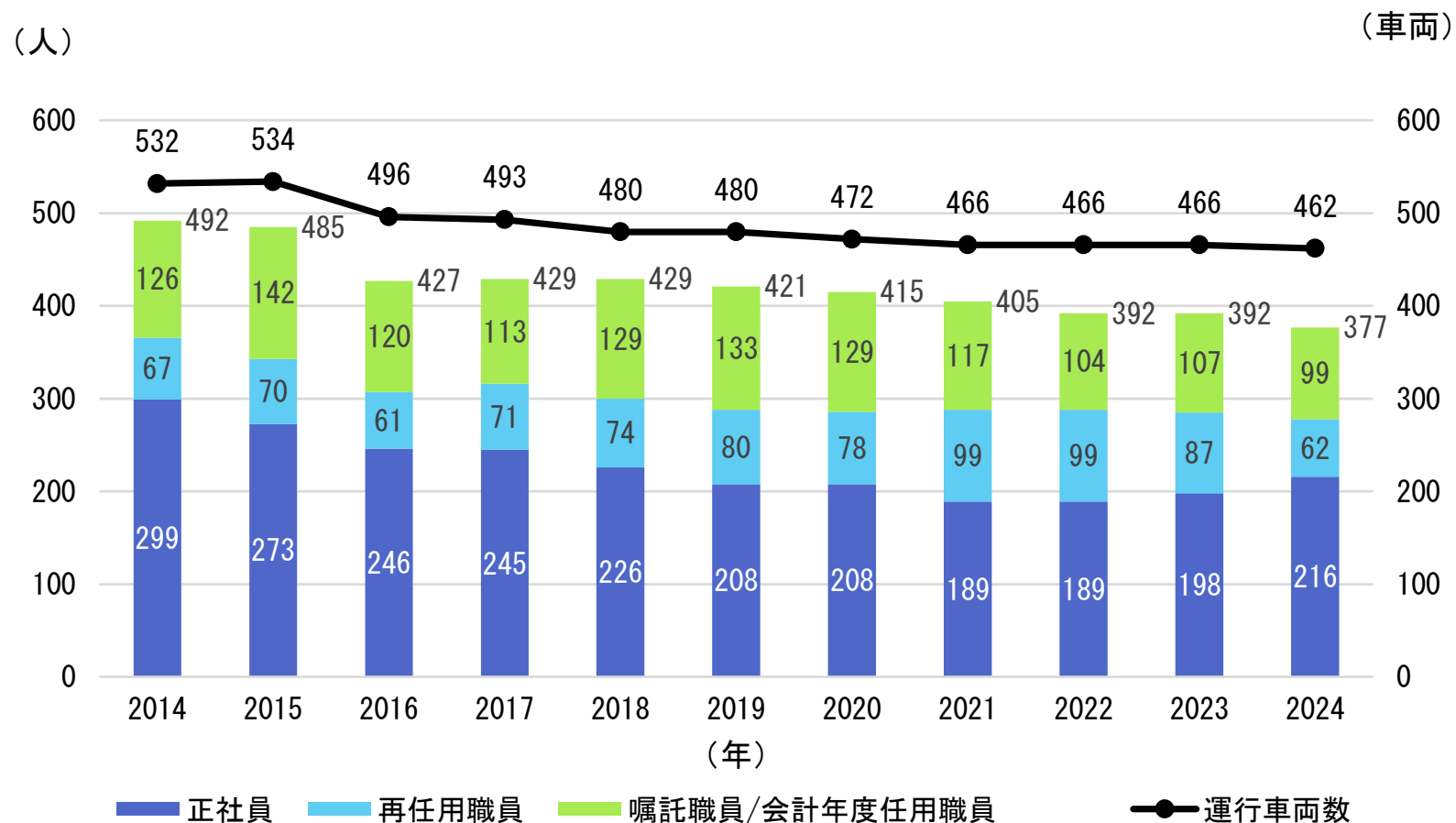
②宮城交通

- 路線バスの運行本数は年々減少傾向にあり、2014年は平日2,232便/日であったのに対して、2024年は平日1,411便/日である。



市営バスの運行車両数・運転士数の推移（2014～2024年）

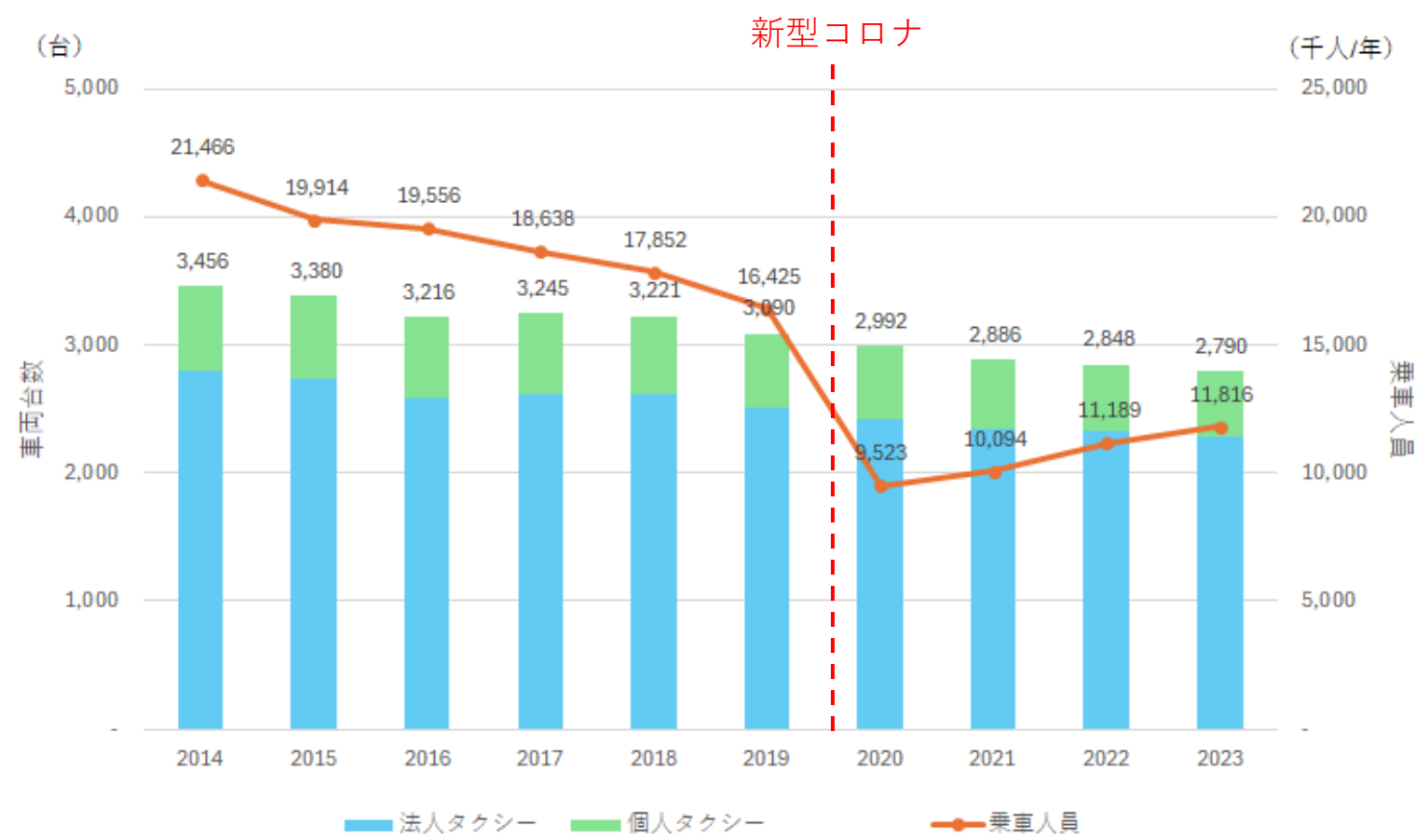
- 市営バスの運転士は年々減少しており、2014年の492人に対して、2024年には377人となっている。正社員の運転士数も減少傾向にあったが、2022年を境に増加傾向に転じている。
- 運行車両数は年々わずかに減少している。



出典：仙台市交通局提供データを基に作成。
※うち貸切：2014年 20車両、2015年 20車両、2016年 13車両、2017年 10車両、2018年以降廃止
※運転士数に委託分は含めていない。

タクシーの利用者数・車両台数の推移（2014～2023年）（市全域）

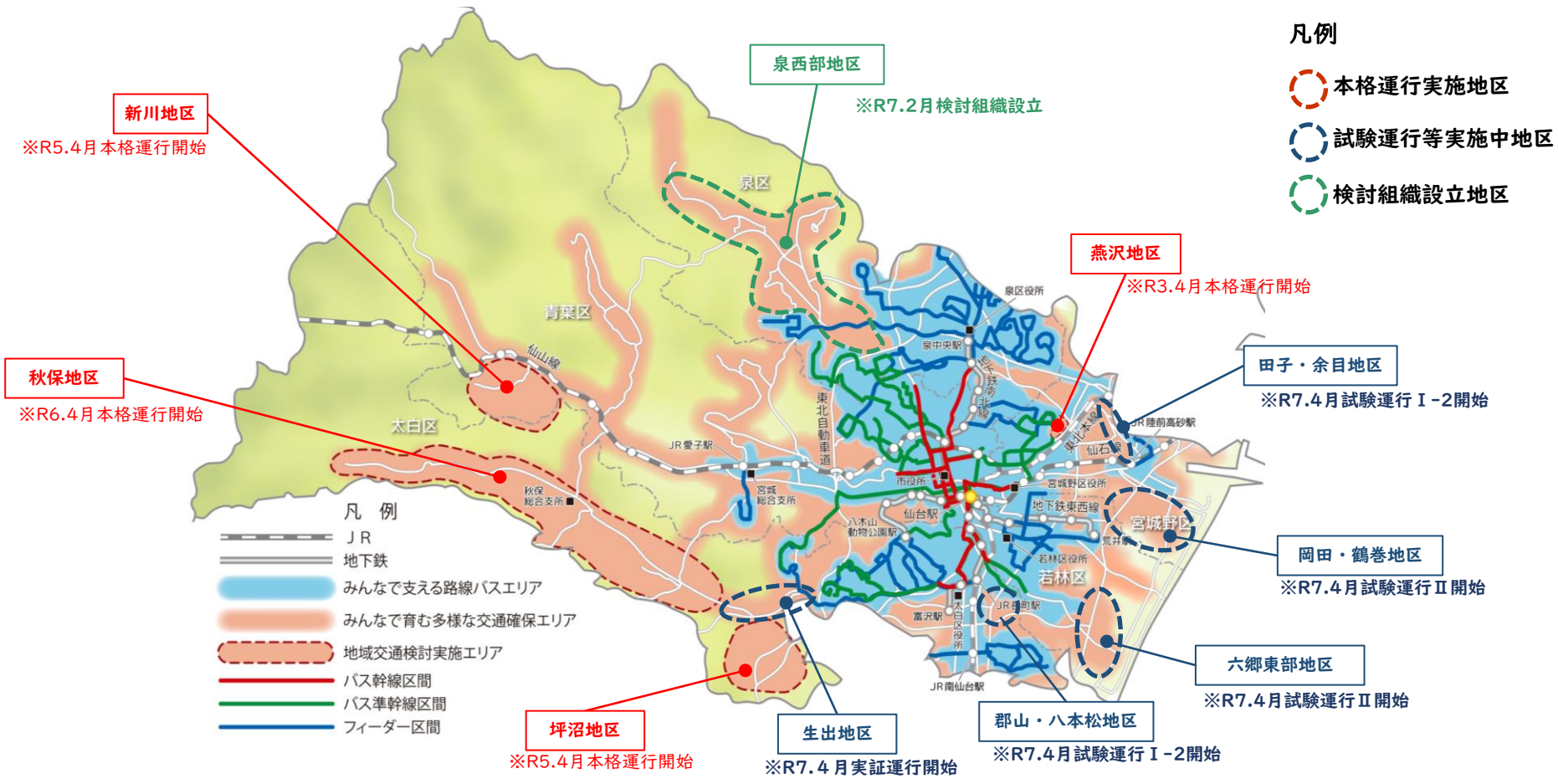
- タクシーの利用者数は、年々減少傾向にある中、新型コロナ流行の影響により、**2020年**には利用者数が大きく落ち込み、その後は徐々に回復傾向にあるものの、流行前の水準まで回復していない。
- タクシーの車両台数は年々減少しており、**2014年の3,456台**に対して、**2024年には2,790台**となっている。



出典：仙台市統計書より作成

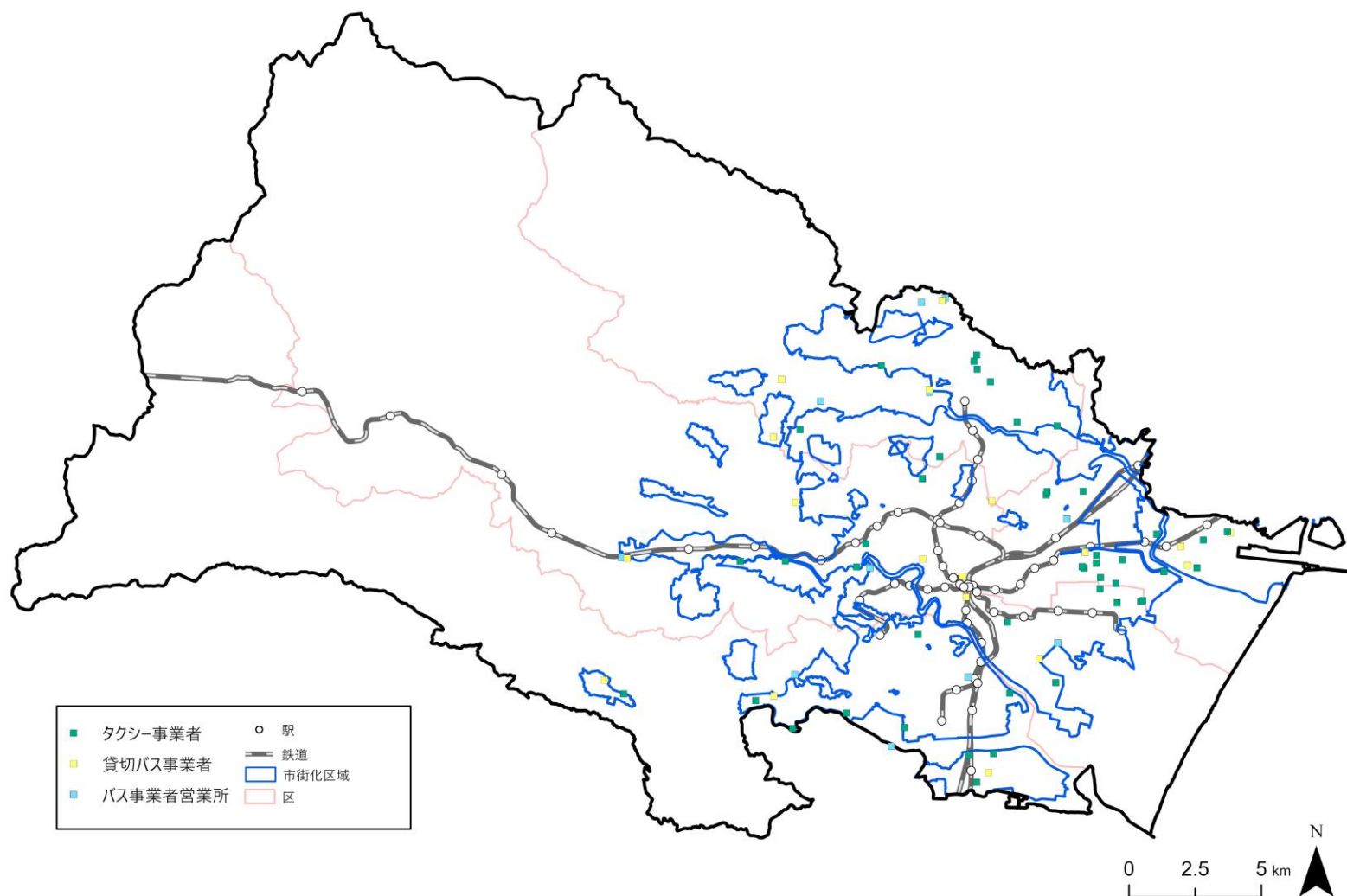
地域交通の導入状況

- みんなで育む多様な交通確保エリアを中心として、地域交通（地域主体により運行される乗合タクシー等）の導入（本格運行：4地区、試験運行等：5地区）や検討組織の設立が行われている。



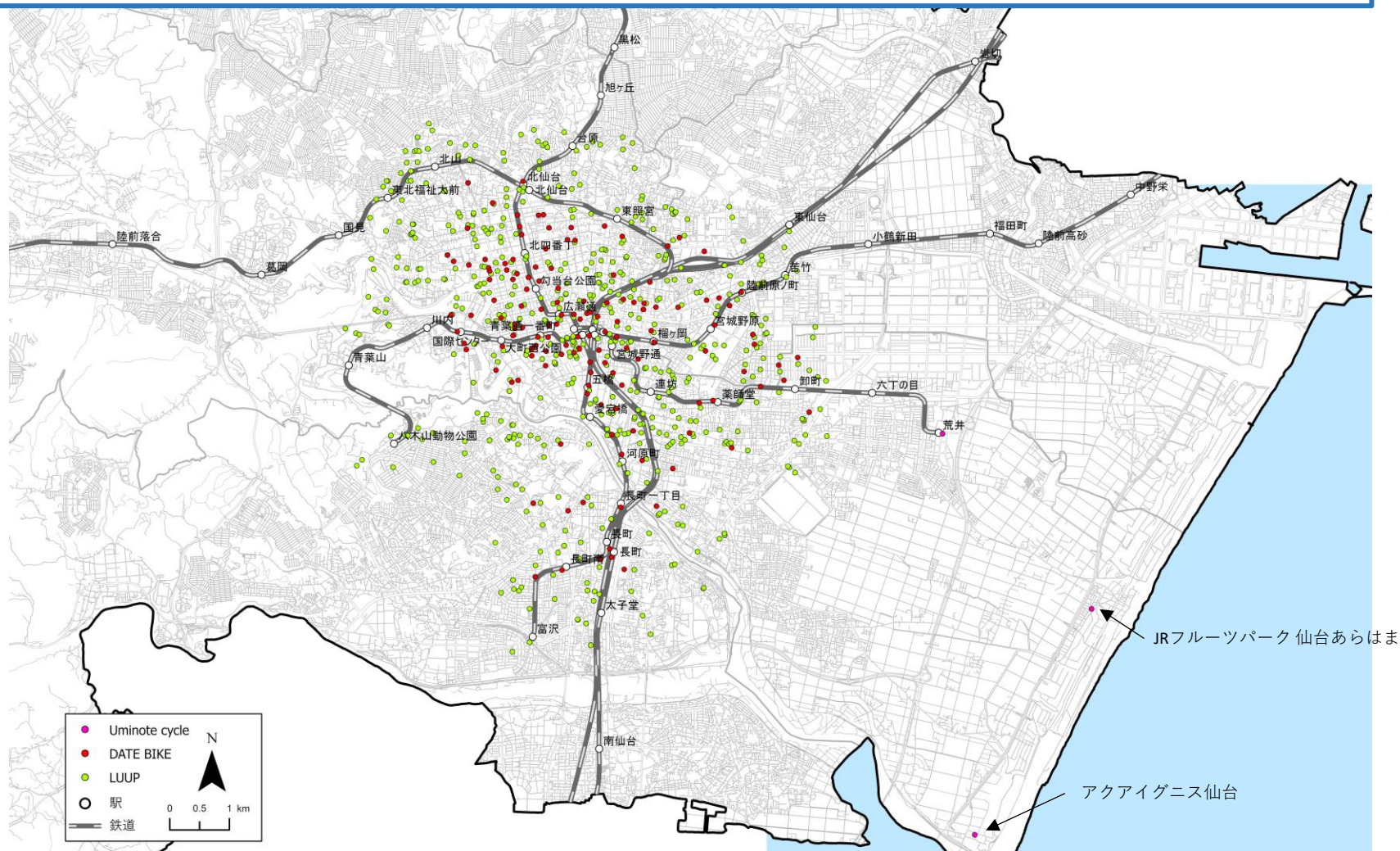
タクシー・バス事業者の所在地（市全域）

- タクシー・貸切バス事業者のほとんどが市街化区域内に位置している。



シェアサイクル・電動キックボードのポート配置（市全域、運行事業者別）

- **DATE BIKE**、**LUUP**のポートは、市中心部に多いほか、北は台原、東は卸町、南は富沢・太子堂、西は青葉山・八木山の付近まで広がっている。
- **Uminote cycle**のポートは、荒井駅及び沿岸部の大型施設付近に設置されている。



交通関連の新技术の活用状況（自動運転・国内事例）

- 国内の複数の地域において、**レベル4自動運転の実装**が行われている。
- 茨城県日立市の事例では、ひたちBRT専用道路区間において、**中型バス車両を用いたレベル4自動運転**での運行が行われている。

レベル4自動運転の実装地域

市町村	車種	運行距離	概要
北海道上士幌町	小型バス	片道 約0.6km	上士幌交通ターミナル～上士幌町役場北側
茨城県日立市	中型バス	片道 約6.1km	BRT専用道区間(南部図書館～河原子(BRT))
東京都大田区(羽田)	小型バス	1周 約0.8km	羽田イノベーションシティ内
長野県塩尻市	小型バス	片道 約0.5km	塩尻駅～塩尻市役所
福井県永平寺町	小型カート	片道 約2km	荒谷停留所～志比停留所(歩行者自転車専用道)
三重県多気町	小型バス	片道 約2.5km	リゾート施設「VISON」構内
大阪府大阪市(万博)	大型バス	-	舞洲パークアンドライド一部区間
愛媛県松山市	小型バス	片道 約0.8km	高浜駅前～松山観光港

出典：各自治体HPより作成



図 ひたちBRT運行車両
出典：日立市HP

【参考】自動運転レベル

レベル	名称	縦横の車両運動制御	対象物・事象の検知及び応答	限定領域
0	運転自動化なし	運転者	運転者	適用外
1	運転支援	運転者及びシステム	運転者	限定的
2	部分運転自動化	システム	運転者	限定的
3	条件付運転自動化	システム	システム	限定的
4	高度運転自動化	システム	システム	限定的
5	完全運転自動化	システム	システム	限定なし



図 上士幌町運行車両
出典：上士幌町HP

交通関連の新技术の活用状況（自動運転・仙台市での取り組み）

- 本市では、自動運転レベル4（高度自動運転）でのサービス実装を目指し、青葉山エリアにおいてE Vバスによる自動運転の運行実験が行われている。

【青葉山グリーン回遊プロジェクト】

○これまでの取り組み

- 令和5年度：手動運転によるデータ収集・分析等
- 令和6年度：自動運転レベル2による運行実験

○令和6年度の実施概要

- 日時：令和6年10月20～22、25～27日の6日間
- 便数：各日6便 ※10月27日（日曜日）は5便
- 運行区間：国際センター駅～仙臺緑彩館
～仙台城跡（往復）
※区間全体で約2.4km
- 検証内容：①急カーブ、急勾配における車両挙動等の技術的課題の把握
②利用者アンケートによるニーズや自動運転に対する受容性等の確認



E Vバス



令和6年度運行ルート

2. 次期計画における「公共交通に関する現状と課題」 (案)

「バスを中心とした公共交通に関する現状と課題」（案）

現状

バス運転士の担い手不足の深刻化

バス利用者の減少傾向、
新型コロナ前の水準への未回復

物価・人件費等の高騰

生産年齢人口の減少、
高齢化の進行

EVバス・MaaS等の普及、
自動運転・AI等の新技術の発展

歩行者が仙台駅周辺に集中傾向

都心来訪者の立ち寄り個所数が少ない

問題

路線バスの減便等の
公共交通サービスの低下

路線バス事業を取り巻く
厳しい経営環境

通勤・通学交通等の需要減少、
生活圏での移動ニーズの増加

都心での賑わいの低下、停滞

課題

公共交通サービスの持続可能性

公共交通のさらなる利用促進と
利便性の確保

経営資源を有効活用した
効率的なバス路線網の構築

地域の実情に応じた
移動手段の確保

交通DX・GXの加速、
導入を見据えた環境整備

都心回遊性の向上

まちや地域の持続可能性

【参考】現計画における「公共交通に関する現状と課題」

